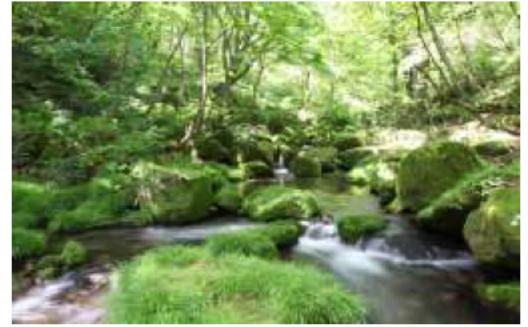


活動場所

「天然水の森」



活動目的

- ◆「地下水」の安全・安心とサステナビリティ（持続可能性）を守るために、『工場で汲み上げる地下水の2倍以上の水』を、工場の水源涵養（かんよう）エリアの森で育む
- ◆「水源涵養力の高い森＝生物多様性に富んだ森」という考えに基づいて森林整備を実施

活動内容

サントリーでは、工場の水源涵養エリアを特定し、その周辺の行政や森林所有者と森林整備の中長期的な協定を結び、「天然水の森」を設定しています。サントリー「天然水の森」は、2003年熊本県・阿蘇からはじまり、現在、15都府県21箇所、約12,000haまで広がっています。

【具体的な取組】

- ◆手入れ不足の人工林の間伐と針広混交化
- ◆落葉広葉樹林の常緑化を防ぐ
- ◆木の根による斜面崩壊リスクの低減
- ◆ピラミッドの基盤を脅かす鹿の採食圧への対処
- ◆DNAにまでこだわった地域性苗木の生産と植樹
- ◆草原の再生
- ◆湿原の再生
- ◆拡大竹林を元の雑木林に戻す
- ◆病虫害対策
- ◆ピラミッドの頂点である猛禽類を守る
- ◆小鳥たちの力を借りた森づくり



PRしたいポイント

◎過密な森林を間伐して蒸発散量を適度に減らしつつ、多様な動植物、多様な土壌生物たちを再生させ、彼らと力を合わせて、地下水涵養力と生物的浄化機能の高い「フカフカな土」を厚く育てていく森づくり

活動効果、今後の展開 等

天然水の森活動は、R(リサーチ) - PDCAサイクルに基づいて、順応的な管理を進めている。今後も、そのサイクルに基づき、多様性に満ちた、健全でかつ美しい森づくりの螺旋階段を、着実に登っていきたいと願っている。